

5 まとめ

- 5-1 まとめ①
- 5-2 まとめ②

HITACHI
Inspire the Next

© Hitachi, Ltd. 2006. All rights reserved.

5-1 まとめ①

HITACHI
Inspire the Next

今回のデータ分析に基づいたまとめを以下に説明する。

- ・過誤の事由別による考察によると、フェーズ1(約4割)・フェーズ2(約5割)とも資格過誤解消に向けて大きな効果がある。
- ・資格過誤の保険者別割合では、政管(約4割)と国保(約3割)が多い。実施する場合、先行して取り組むことも有効と考えられる。
- ・資格過誤発生時における医療機関の最も大きな作業は、「受診から数ヶ月後の患者を追跡し、会話してレセプト修正のための情報を得ること」である。フェーズ2は、過誤発生の可能性が窓口でわかる一手段として有効なツールになると考えられる(資格過誤が発生した時の大きな作業を抑制できる)。特に不特定多数の患者が訪れる病院で有効な仕組みである。逆に診療所など、患者の多くが顔見知りの医療機関では、効果は小さい。

今回の分析・考察は、1医療機関(茨城県・中規模病院)のサンプルを元に行った。また、効果試算についても幾つかの前提の元に試算を行っている。このような制限はあるが、今回の調査分析結果と保険者の動向を考慮し、各施策に対する今後の取り組み方針案を、以下に示す。

<フェーズ1について>

- ・フェーズ1の費用対効果は医療機関から見て非常に大きいと考えられる。現在、被保険者証のカード化は各保険者で取り組まれている最中であるため、フェーズ1を実施するのであれば、早期に被保険者証に付帯する2次元コード(QRコード)の仕様標準化を行うことが有効と考える。

<フェーズ2について>

- ・今回の試算では、約5割の返戻削減と非常に大きな効果が期待できるという結果となった。特に病院における導入効果が大きいと考えられる。ただしフェーズ1に比べて仕組みが大きいため、費用対効果がある仕組みの確立に向けて、引き続き更なる多面的な検討が必要と考える。
 - ①実態把握に向けた更なる調査(資格喪失日と受診日の関連の定量的な把握)
 - ②費用対効果の高い仕組みの確立・運用ガイドラインの検討
 - ③システム化に向けた技術検証

等